

令和5年度 第4回大木中学校運営協議会 記録概要
(兼大木中学校区・合同学校運営協議会)

1 実施日時 令和5年11月22日(水)16時00分～17時00分

2 会場 大木中学校・会議室1

3 研修会

(1) 研修会の演題(内容)設定の説明

- 外国児童が増えている。また、年々増える傾向となっている。
- その中でも日本語が話せない児童の支援に取り組んでいるが、集まってくる児童の人数が多い時などは、配置できる職員の数に限りがあり苦慮している。
- 教育支援課から通訳の方が来て支援いただいている。保護者への連絡もしていただいている。
- このように外国人の子どもたちや保護者について、委員の皆さんに知っていただき、今後の支援につなげていきたいと思い、この演題での研修とさせていただいた。

(2) 研修

講師：鈴鹿市教育委員会事務局 教育支援課 中尾万弥

演題：すべての子どもが、互いにちがいを認め合い、共に生きる社会をきづいていくために ～学校・地域でできること～

研修項目

- (1) 鈴鹿市の外国につながる子どもたちの現状・大木中学校区の現状
 - (2) 鈴鹿市の日本語教育について
 - (3) 日本語教育で大切なこと
 - (4) 学校、地域でできること
- ・上記項目について、講師が作成したスライド資料を提示しながら研修会を行った。

(3) 質疑応答

質問：日本語指導において、資格等準備するものはありますか。

(講師：日本語指導の資格が必ず必要ということはありません。教員免許があれば日本語指導講師をしていただけます。)

感想等：鈴鹿市のお話を聞いてすごいと感心した。10年前にこのようなシステムがあるといいなと思った。指導して思うことですが、外国籍の子どもたちは、自分の学級の中では大人しくしている。しかし、取り出し授業(国際教室)ではストレス発散している状態を見てきた。授業進度の差が常にあるとあって、この差を埋めてあげたいと思います。また、夢をなくす子が多いと

思います。高校入試の頃に欠席することもあった。夢が持てる指導をお願いしたい。

(講師：夢を持ってほしいと常々思っています。教育支援課では、進学した外国人高校生を迎えて進路ガイダンスを行っています。)

質問：保護者の方が担任の先生とうまく話ができないと聞くと、現在はどうなっていますか。翻訳アプリがあるといいなといった声もありますが。

(講師：保護者の面談には通訳を派遣しています。子どもたちの端末(クラウドブック)等のGoogle翻訳を使ったり、市民対話課の通訳と通信ができるタブレットを使ったりして対話をしています。最近は精度の高い「ボイストラ」といったアプリがあります。)

(長太小：ポケットークを準備して対応しています。)

(4) CS推進コーディネーターより

- 現在は、市内小中学校で38校に外国人児童生徒が在籍していますが、以前はあまり分散した状況ではなく、特定の学校へ集まる傾向がありました。大木中学校区に入る外国人児童生徒は少なかったと思います。
- 地域においては、日本の文化を知らない方をどのようにサポートするのかを考えた取組が必要で、地域行事に参加いただくところからなどが大切であると考えます。

4 学校運営協議会委員の意見・感想等

- ・ 鈴鹿市がいろいろなところと連携を取りながら、外国籍の子どもたちを支援・教育していることが分かり大変勉強になりました。
- ・ 教育支援課を中心に各学校の支援やその取組等を知ることができ、また大変勉強になりました。地域でできる事で本日学んだこと、教えていただいたことを持ち帰り、どのようなことができるかをしっかりと学んでいきたいと思いました。
- ・ 鈴鹿市で770名の外国人児童生徒がいるという事について、そんなに多いとは思っていなかった。学校の教育もすごいサポートがあることすら知らずにいました。学校または子どもたちに対して、学んだことを参考に見守って行くようにしたい。本当によい勉強になりました。

5 その他

- ・ 大木中学校の図書館開放ボランティア募集について、大木中学校地域コーディネーターから配付チラシを紹介し、各小学校で配付いただくよう依頼した。